



第3学年 学年だより

第20号 2017年9月8日(金) 文責 石田 順

## 運動会の意義

いよいよ明日が運動会です。今日までの練習はどうでしたか？どのクラスも最後の運動会ですから勝ちたい気持ちはあるでしょう。しかし何度も言いますが、最後の運動会だからこそ3年生として運動会にかける想いや心意気をしっかりと下級生に魅せてほしいと思います。それは単に勝負にこだわる姿ではなく、私は「生き方」だと思っています。

運動会で魅せる「生き方」。少し大げさに聞こえるかもしれません、以前先輩の先生から教えていただいたお話の中で、その意味を感じることができました。足の速い生徒だけが目立つ運動会ではなく、力のある生徒だけが目立つ運動会でもない。運動が苦手な生徒も、足の遅い生徒も堂々と胸を張って演じることができます。そして一生懸命頑張る仲間を精一杯応援する「自分」がいる。その心意気が自分の糧となり、自分の生き方をもっと豊かにする。私はそう信じています。

昨年も紹介しましたが、もう一度その先輩から伺った話をここに掲載します。

私は小学校5年生の時、野球をしていて友達と衝突し、右の足のお皿の下にある筋を切ってしまいました。だから私は足が不自由です。小学校の5年生から師範学校を卒業するまで、9年間運動会が9回ありました。運動会の度に徒競走があるので、今年はサボってやろう、今年こそはサボってやろうと毎年思っていました。しかし、私はいつもドッテンドッテンと足を引きずりながら、一番ビリで多くの人の前で、長い時間、私の体をさらしながら生きてきました。9年間で9回の最後の運動会が終わったとき「走り続けて良かった」とこの頭がこの足に感謝しました。これで私は日本一のビリっ子になれたと思いました。

私はこの頭の不注意のために足を傷つけてしまいました。しかし、この足は苦しいともはずかしいとも言わないで、私の全身を支え、私の頭を支えてくれました。そのことに気づかないこの頭は、勝手にはずかしいと足を憎んだりしたこともありました。私の不自由な右足をかばうように、左足の太股は右足の太股の倍近くあります。左足の太股の太さはけがをしてから53年間、右足をかばいながら、左足が生きてきた証拠なのです

ビリっ子だからといってぶつぶつ言うまい。ビリっ子にはビリっ子の生き方がある。ビリっ子はビリっ子であることを、避けようしたり、ごまかそうしたり、そんな生き方はしない。雨の日には雨の日の生き方があるように、私には私であることの上に生きる生き方がある。それからの私は、私にとってマイナスをプラスに変える生き方をつくることに必死になってきました。

堂々と 胸を張って 精一杯  
1人1人が輝く運動会にしよう！